

# 月刊 書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 77～

令和2年（2020年）



**第5回臨書展の締め切りは再延長されました。4月24日（金）必着です。**

## 目次

- ◇ご挨拶 会長・大平恵理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◇第5回書文協臨書展実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◇第8回伝統文化大会受賞者コメント集・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

### 一般社団法人日本書字文化協会（書文協）

本部 〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6 丸由ビル3階  
電話03-6304-8212 / FAX03-6304-8213  
Eメール info@syobunkyo.org ホームページ <http://www.syobunkyo.org>  
附属書写書道専修学院

本部中野教室 本部に同

青梅教室 〒198-0036 青梅市河辺町10-10-3 サンライズイウ301

# 新学期にあわせ教室再開

書文協代表理事・会長 大平恵理



月刊書字文化 2・3 月合併号で、書文協創立 10 周年（2 月 22 日）のご挨拶をさせていただきました。書文協として公共性をしっかり保持しながら、仲間全員の切磋琢磨で書写書道の学びを進めていく決意を述べさせていただきました。秋には 10 周年記念会合を開くこと、そこで新規事業も発表したいこととお知らせしました。かつてない危機の中での再出発となりましたが、ピンチの後にチャンスあり。書文協は力強く歩を進めたいと思います。

## 4 月初旬に教室授業再開

書文協は 2 月 29 日から、コロナウイルス感染拡大防止のため、附属専修学院（中野本部教室、青梅教室）の教室での講座を閉じ、在宅での添削学習に切り替えました。全国の加盟各教場にもそうした方式を推奨、その代わり偶数月実施としてきた書字検定試験を 3 月も行うことにしました。学びを継続させるための措置でしたが、多くの教場にご協力いただき感謝いたします。

しかし、書写書道の学びには、生徒と指導者の対面指導が不可欠です。東京都中野区内の公立小中学校では 4 月 6 日から新学期が始まるなど、全国で学校再開の状況にあることを踏まえ、書写書道の学びも開講させたいと思います。4 月 2 日の中野ゼロホールでの書文協専修学院生講習会も開催と決定しました。ただ、今後の見通しは樂觀を許しません。防疫に細心の注意を払いながらの開講が必要です。

## 教室経由の添削方式を強化へ

今回の事態でテレワークが拡大しつつありますが、書写書道の学びにおいては、添削方式の活用が注目されます。その際、各教場の関与を広く取り入れることが添削学習の学びの質を高めるために必要です。つまりは、添削学習のためには、教場指導者のレベルアップを図ることになるわけで、指導者ライセンス（資格）試験の拡充強化をすすめたいと思います。新硬筆検定ですでに導入していますが、検定作品に対する本部のワンポイント添削作品の返却の前後に、教場の事前添削指導、事後指導を取り入れることなどを検討していきたい、と思います。もちろん、教場のご努力は教場の収入となるよう書文協本部は努力してまいります。



## 通信教育の再整備を急ぎます

書文協の通信教育は、検定・ライセンス試験の見直しの中で、いったん、ほとんどの部門でストップさせています。再開の骨格作りが遅くなっていますが、5 月初めには再開を広報したいと思います。各教場から遠く離れた場所でも、書文協専修学院の一翼として学んでいただける、まさにバリアフリーの通信教育再開に尽力いたします。

## 第5回書文協臨書展実施要項

臨書とは、大まかに言えば、書の古典を模写することを言います。書道を学ぶ上で、書く技術を高めるためのとても大事な学びとされています。高校書道科のカリキュラムでは、臨書が重視されているのがわかります。また、古典の多くは中国の優れた書作品です。国際化時代の異文化理解の手始めとして、漢字同文の隣国の文化を知ることとはとても意義があります。

こうした目的から。書文協は早いうちから臨書に親しめるように工夫した臨書展を開催、今年度で5回目となりました。

**主催** 一般社団法人日本書字文化協会

**後援（予定）** 東京都青梅市日本中国友好協会、中国書法学院、国際芸術家連盟、NPO 法人日中友好交流促進会、中国国立南京芸術学院日本校  
蘇州・寒山寺、蘇州吳昌碩研究会

**作品〆切** 令和2年4月24日（金）必着

**応募資格** 全部門とも年齢不問

### 募集部門

<臨書の部> 用紙は半切、八ッ切、半紙

- ・自由課題（高校教科書臨書教材から4文字以上）
- ・常設課題（漢詩・楓橋夜泊）の1句以上  
1句中の四文字、三文字でも可

<楷書書写の部> 下記から選ぶ。用紙は半紙、八ッ切

- ・1字：月 満 天 漁 火 城 外 の中から1文字
- ・2字：漁火      ・3字：寒山寺

**展示会** コロナ感染の終息状況を見て開催を決めます。今大会からホームページの大会結果欄に優秀作品の掲載を行う予定です。

**手本** 指定課題の部は漢詩・楓橋夜泊の拓本をA3判に複写したものを、楷書漢字の部の手本（大平恵理揮毫）はA4判で計9枚。手本はいずれも1枚当たりA4判110円、A3判220円。希望者は送料110円を加えた相当額分の切手を添えて、書文協本部臨書展係りに申し込んでください。

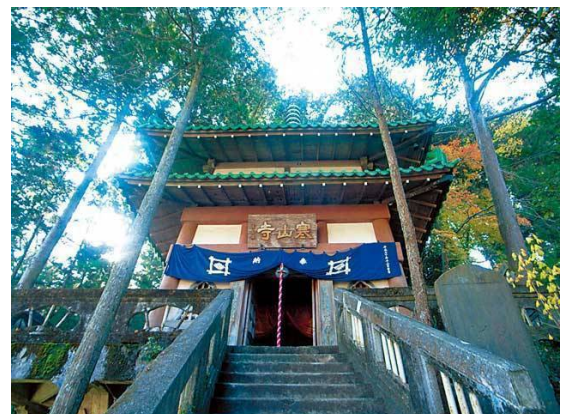
※金額は消費税込



- 出品方法** ①作品に出品票を貼付する（出品票には出品券を貼付）  
 ②応募総括用紙、応募明細用紙を同封し送付  
 ※①②は書文協ホームページからダウンロードまたは、書文協にご請求。  
 ※出品料をお振込みの上、その受領証またはコピーを応募総括用紙に貼付して下さい。
- 出品料** 臨書の部は1点1,000円（幼児・小中学生は700円）  
 楷書書写の部 同700円（幼児・小中学生は500円）  
 個人出品は一律1点1,500円 ※いずれも消費税別
- 振込先** ゆうちょ銀行 名義 一般社団法人日本書字文化協会  
 記号 00130-1 番号728113
- 賞** 大賞（臨書の部1・2から）、中央審査委員会賞、日本書字文化協会  
 会長賞、青梅市日中友好協会会長賞、日中文化交流促進会理事長賞  
 優秀賞
- 審査員** 加藤東陽（書文協中央審査委員会委員長、東京学芸大名誉教授、  
 日本武道館書写書道審査リーダー）  
 加藤堆繫（同委員会委員、東京学芸大学教授、  
 前文部科学省教科調査官）  
 豊口和士（文教大学教授、文部科学省教科調査官）  
 大平恵理（日本書字文化協会会長）
- 作品提出先** 〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6  
 丸由ビル3階、書文協本部  
 電話 03-6304-8212 FAX03-6304-8213  
 書文協ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

ご挨拶 渡邊啓子 臨書展実行委員長（書文協副会長）

漢字は3300年前、古代の中国で生まれ3世紀ごろ  
 日本に伝来しました。文字を持たなかった日本民族は、  
 漢字から仮名を生み出し、漢字・仮名交じりの日本語  
 が出来上がったのです。また、臨書は書写書道の大事  
 な学びです。日本寒山寺を抱く沢井の地を舞台に、臨  
 書の楽しさを体験してください。開催にご協力いた  
 いた皆様に厚くお礼申し上げます。



写真は日本寒山寺

## 第8回伝統文化大会特別賞受賞者コメント集

# 「努力が報われて嬉しい」

第8回全国書写書道伝統文化大会は「全国年賀はがきコンクール」と「学生書き初め展覧会」が開かれ、総計 13,283 点の作品が寄せられました。この中から両コンクール及び総合の部（両コンクールとも優秀な成績を上げた人から選ぶ）で上位の優秀な成績を上げた人たちから寄せられたコメントを紹介します。

**編集部から** コメントはいずれも編集部によって短縮されるなど編集されており、文責は書文協にあります。コメントの対象の賞名は記載のようですが、人によっては他の賞も受賞しています。コンクール名は年賀（全国年賀はがきコンクール）、書き初め（学生書き初め展覧会）と略記しました。総合の部も伝統文化賞と記載しました。該当者への連絡不備があったことをお詫びします）

### ◆**峯田 彩世（東京都宝仙中3年）総合 文部科学大臣賞**

#### 訪中で学んだことも活かせた

私は小学2年生のときから書道を始めました。すごく遅いかも知れません。しかし、それをここまで続けて来れたからこそ、いただいた賞だと思っています。今回は毛筆と硬筆の総合ですが、苦手だった硬筆が上達したことを実感することができました。

昨年12月に日中交流のため中国に行かせて頂きました。そこでは、中国の書道の文化と日本の書道の文化の違いについて触れることができました。例えば、私たちは条幅に大きな字をバランスを考えながら書いていきます。一方で中国の子供たちは条幅の紙に薄く鉛筆で正方形のマス目が書かれていて、その1マス1マスに漢字を書いていました。やり方としては硬筆と似ている様子でした。このように、色々なところで学んだ事が今回の賞に活かせたと思っています。これからも、このようなチャンスをものにできるようにしていきたいです。

### ◆**米田 琴音（吹田市立岸部第二小4年）総合 伝統文化賞**

#### たくさんの事注意して書いた

今この文章を書きながら、お手本や練習したものを見返しています。たくさんの方に注意して書いたなあと思います。

硬筆では、文字のならびがガタガタに見えないようにするのが大変でした。年賀はがきはカタカナが多く出てきて、中心をとることがむずかしかったです。文章の意味が一つずつまとまるように、行と行の間かくも考えて書きました。

毛筆では、はらいやはね、止めの形や強さに気をつけながら、つながりをイメージ

して流れを止めないようにと思いながら書きました。最後の「心」という大事な文字まで、あきらめずにがんばりました。

私になっとくできる作品を書くまで、とても時間がかかります。けれど、練習を重ねると、少しずつ良い文字になっていくのが分かるので楽しいです。

#### ◆水野由理（愛知県・刈谷市立刈谷東中 2年） 総合 伝統文化賞

##### 支えてくれた人たちのためにも頑張った

私が書写を始めたのは、小学1年生の時です。初めは、先輩方の素晴らしい作品に圧倒されながら練習していました。そして、年齢を重ねるごとに「私もたくさんの人に感動を与える事のできる作品を書きたい」と、思う気持ちが強くなりました。しかし、自信を無くしてしまうこともありました。そんな時、先生が夜遅くまで粘り強く指導して下さい、いつも応援してくれた家族、共に練習を重ねてきた仲間達の存在が私を支えてくれました。本当に感謝してもしきれません。今まで支えて下さった、たくさんの人達のためにも、今大会では今までよりも努力を惜しまずに練習に取り組みました。これからも感謝を忘れずに、さらなる飛躍を目指し、より努力していこうと思います。

#### ◆大塚 綾音（千葉県・たきのい幼稚園年長） 年賀 文部科学大臣賞

##### これからは漢字も頑張るね

私は筆圧が弱いので、いつももっと強く書くように先生に言われているのですが、今回のコンクールの作品を書いている時も、少しでも元気のない字を書いたら最初からやり直しになり、何度も何度も書き直しました。

また、いつも丁寧に書くように心がけているのですが、特に今回は一画一画お手本をじっくり見ながらゆっくり書きました。

今、漢数字を習い始めているのですが、これからは平仮名だけでなく、漢字も上手に書けるように練習を頑張っていきたいです。（保護者代筆）

#### ◆古川 果歩（横浜市立牛久保小 1年） 年賀 文部科学大臣賞

##### 先生、分かりやすく教えてくれてありがとう

わたしは、年中の4月から、エンピツらんどで字のれんしゅうをはじめました。お手本みたいに、きれいな字をかけたときは、すっきりして、きもちがよくなります。文ぶか学大じんしょうに、えらんでいただいて、とてもうれしいです。

エンピツらんどの竹本先生、石川先生、そのほかの先生がた、いつも、わかりやすくていねいに、おしえてくださりありがとうございます。

これからも、きれいな字をかけるように、がんばります。

◆細田 優衣（埼玉県志木市立宗岡小6年） 年賀 文部科学大臣賞

小学校最後の大会に悔いがないよう取り組んだ

これまでも大会に出品し「文部科学大臣賞」を目指して頑張っていたので、先生から受賞の知らせを聞いたときはとても嬉しかったです。

今年は小学校最後のコンクールということもあり、後悔のないよう教室や自宅での練習に取り組んできました。今回の課題では字に強弱をつけることが難しく、そのことに気をつけながら一枚一枚書きました。

良い作品を書くことができたのは、細かいところまで丁寧に指導して下さった先生方のおかげと思っています。これからも日々の努力を忘れずに、いつの時もきれいな字を書きたいと思います。

◆大平 麗雅（都立向丘高3年） 年賀 文部科学大臣賞

集中で15年間の努力が花開いた

高校最後の大会で「文部科学大臣賞」をいただくことができ、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。3歳の時から習い始めて十五年間、書写書道をやってきましたが、集中できずに、苦戦していました。しかし、昨年末からの2か月ほどの短い時間でしたが、初めて他の事に目を向けずに書写書道のことだけ考えて取り組むことができました。先生のご指導のもと1字1字丁寧に描くことを心がけました。そのような集中できる環境を作ってくれた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから大学に進むと、書写書道に専念する時間が短くなると思います。しかし、友人を大事にし、地道にコツコツ小さな努力を疎かにせずに、自分なりに頑張っていると思います。

◆高木 京一郎（千葉県船橋市立二宮小3年） 年賀 大賞

がんばったよ!!!

ぼくは、年長から「えんぴつ教室」に通い始めて、初めはあまり字が上手く書けず、ちょっとイヤだな～と思った事が有りました。しかし、先生がていねいで、上手に優しく教えてくれたので前は上手じゃなかったけど、少し自信がついて来ました。

三年生になって先生に「すごく!!のびてきたね!!!」と言われ、うれしくて、もっと字が上手く書きたいな～あとと思いました。今回は、作品に初めてカタカナが入ることになり、先生達が「大変だよ!!」と言って、ぼくはちょっと、びびって来ました。でもやるっ!!!って決めたから、ぼくもがんばって取り組みました。

いつも、ていねいに教えてくれる康代先生・文恵先生ありがとうございました。これからも、よろしくおねがいします。

次回は、大賞より上を目指して、さらにながらばっていきたいと思います。

### ◆植田 惇平（早稲田摂陵高2年） 年賀 大賞

#### 大学受験と書道の両立を目指します

久しぶりに上位賞をいただき、嬉しい気持ちでいっぱいです。大学受験までまだ余裕のある今回の年賀はいつも以上に練習に力を入れました。その中でも難しかったのは、特に漢字と平仮名の大きさの違いを出すことと、真っ白な紙面に行間の配分をバランスよくして余白を生かすことの二点です。

まず、漢字は上の文字をしっかりと見て行の中心を捉えます。平仮名は漢字よりも幅を小さく整え、連綿を大事に意識して書きました。次に、余白を生かすということですが、上下左右と氏名・落款印の位置を明確にする作業が必要となりました。ペンを握る手がもうつらいと思うくらいまで、何度も書き直しました。

高校3年生になると、練習時間が限られる中でいかに集中し、納得いく作品ができるかが重要だと思います。受験勉強と書道の両立ができるように、これからも頑張っていこうと思います。

### ◆鈴木 苺亜（東京都中野区立中野東中1年） 年賀 審査委員会賞

#### 後悔は自分への応援歌

書道を初めた頃、硬筆は毛筆よりも苦手意識があり、字形を整えることばかり考えて書いていました。筆圧の濃さの調節、1つの線から線への繋がり、太さなどが上手い具合に書けず、最後まで真剣に書くことをせず、途中で手を抜いてしまうこともありました。

中学生になって行書を書き始めるともっと上手く書けなくなりました。何回も消しゴムで消し直してとても苦戦したのを覚えています。

上手くいかなくて悔しい想いを何度もしました。あそこをもうちょい練習しておけば良かった・・・後悔する想いは、もっと良い作品にするための自分への応援だったのだと今は感じています。

それだけではなく、この賞を頂けたのは日々ご指導くださる先生方や、家族などの支えのおかげです。今まで以上に努力していきたいです。

### ◆山内 袖良（刈谷市立東刈谷小5年） 書き初め 文部科博大臣賞

#### うれし涙を流してくれた母

私は5才から書道をはじめ、今年で6年目となりました。先生から電話を頂き、結果を聞いた時は嬉しくて思わず歓喜の声をあげました。母は「おめでとう。今までが



んばってきたかいがあつたね」とうれしなみだを流しながら、いっしょに喜んでくれました。両親には、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今回の練習では筆づかいがとてもむずかしく感じ、指や手首や体の動きがうまくコントロールできず、先生からもとても注意され、どうしてできないんだと自分を責め続けていました。しかし、練習が終わり私の元気がないときは、「あきらめず、必死にがんばれば、結果は後からついてくるよ。先生はずっと応援しています」という先生のはげましの言葉のおかげで、必死にがんばりこのような素晴らしい賞をとることができました。

### ◆平田 早穂（聖徳大学附属女子高3年） 書き初め 文部科学大臣賞

これからも書の専門的学び続けます

私は清らかに流れるような波磔と緊密な点画構成に惹かれ、後漢時代の名品である曹全碑の臨書を続けています。

多字数の表現では、文字の横の配置を揃えても、一字一字の重心が異なると不揃いに見えてしまうことに苦労しましたが、今回の臨書では線質の基本となる逆入蔵鋒や流麗な波勢と柔らかで繊細な波磔の表現の精度をあげたり、全体構想としては遅速緩急を加えながらそれぞれの文字の主画強調をより誇張したりなど、私自身の曹全碑の見方や臨書の考え方に留意し取り組んでまいりました。

今回、名誉ある賞を受賞し、大きな励みとなりました。私は高校卒業後も書の専門的な学びを継続して参ります。

今回の受賞を支えとし、より感性を磨き、書に向かいあう時間をこれまで以上に大切にし、一生懸命取り組んでいこうと決意をしています。

ありがとうございました。

### ◆原田 美咲（明誠学院高2年） 書き初め 大賞

来年度末には屏風作品も作りたい

この度、賞をいただいた作品は、小大君が書いたとされる「香紙切」を臨書したものです。高校入学後に仮名と出会い、勉強を始めました。高二の時に出品したある大会をきっかけに、古筆の特徴を正確に表現するにはどうしたら良いのかと考えながら筆を動かすようになりました。

何度も練習し丁寧な作品作りを心掛けました。練習中は思うように筆が動かず苦労することの方が多いですが、たまに自分の考えていることができる瞬間があります。その瞬間、成長と同時に書道の楽しさを実感し、非常にやりがいを感じております。今尚、課題の多い仮名ですが、流麗さや女性らしさを感じるそんな仮名に魅了されています。今後も古筆に忠実な練習を重ね、来年度末には香紙切を基調とした屏風作品

を作りたいと思います。

◆竹内 諒（東京都羽村市立羽村第一中2年）書き初め 審査委員会賞  
先生、支えてくれた家族に感謝

今回の課題は「無」を整えて書くことが一番大変でした。書いているときは中心に書けたと思っていたけど、書き終わってから見ると左に寄っていたり、バランスが悪くなってしまったりと、納得のいく字がなかなか書けませんでした。でも、先生に何度も丁寧なご指導をしていただき、練習をしていくうちに、なんとか上手く書けるようになりました。

僕が今回このような賞を頂くことができたのは、いつも熱心にご指導してくださった先生や、支えてくれた家族のおかげです。本当にありがとうございます。

これからも、この賞をはげみに努力していきます。

◆酒井 美亜里（聖徳大学附属女子高2年）書き初め 高等学校長協会会長賞  
書の学びが心の成長につながる取り組みを

今回の出品作品は北魏の楷書の臨書作品としました。この書の名品の特徴でもある「角張っている強い線」をどのようにしたら筆で表現出来るかを何回も臨書し試行錯誤しました。

墨を濃くすり、墨をたくさんつける事が大事だというアドバイスを得て、さらに直線的な線や強い横画の角度を平行にし、同質の綺麗な線で書くことが次第に出来るようになってからは、作品の全体構成としての布字や行間の統一感を図り、点画で折れるところをさらに強くし、表現のバランスが良く見えるように工夫しました。

表現の知識や臨書の持つ独特の用筆法を学びながら、自分で改善目標を立て、部員同士の相互鑑賞などで感じた部分の練度を高める取り組みを進めてきました。

今回の受賞を励みにし、これからも書道の学びが自分の心の成長に繋がっていく取り組みを継続し、豊かな作品づくりを目指していきたいと考えています。

